

喪主挨拶（子）

急逝した様子をのべる場合

本日はお忙しい中、またお休みにもかかわりませず、かくも多数の方々にご会葬たまわり、誠にありがとうございました。

また会社の皆様方や先輩、友人の方々からは心のこもったお別れの挨拶を賜り、故人もさぞかし喜んでいると存じます。生前中のご厚誼に厚く御礼申し上げます。

父は勤勉実直な人で少しの時間もじっとしておられない性格でございました。朝は五時に起きて調べ物をし、夜はいつも十一時過ぎまで机に向かっておりました。そんな無理な生活の積み重ねが祟ったのか、一昨日脳溢血で突然意識不明となり、私達が病院にかけつけた時にはもう意識がなく、そのまま帰らぬ人となりました。まだ六十一歳の元気だった父がよもや亡くなることは全く思ってもいませんでした。

今は、ただただ、一生懸命頑張っていたかねばと思つばかりでございます。まだ若輩でありますので、これまでにも増してご指導とご鞭撻を賜りますよう、ここにせつにお願ひ申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。